

ハノイ工科大と連携協定

インターン受け入れ 中核人材に育成

工業用電気炉メーカーの富士電波工業（大阪市）は、ベトナムの理系難関校であるハノイ工科大学の機械工学部と学生の研修・採用支援で連携協定を結んだ。年2人程度を

インターンで受け入れ、将来は継続的な採用ルートにした考え。日本人の新卒採用が難しくなるなか、中核人材として育成する。

中小企業がインターンの協定を、海外のトップクラスの大学と自治体などを通さずに直接締結するのは珍しい。同

社は炭化ケイ素（SiC）などの先端素材を加工するため、超高温の電気炉を設計・製造しており、特殊な技術が大学や学生から評価された可能性がある。

一方、同社がハノイ工科大を選んだのは「最高クラスの人材を採用したい」（横島俊夫社長）ため。もう一つの難

関校のホーチミン市工科大学にも接触したが、ハノイ工科大の方が日本の中小企業に理解がある印象を受けたとい